深耕録

特1
1979

国立国会図書館　タイトル『深耕録』　請求記号 特1-1979

ガラス使用

深耕録

国立国会図書館　タイトル『深耕録』　請求記号 特1-1979

ガラス使用

明治二十四年五月購買

平塚箕山

深耕録 目録

一 発意
一 五穀苗異草来歴
一 晴雨考
一 五穀草木雌雄論
一 培養要訣
一 稲種撰法
一 種物量苗代法
一 種浸法
一 耕作候
一 雑培法
一 種子貯法
一 除水旱虫害
一 豊凶陰陽
一 農業陰陽和合
一 穿法
一 稲蔦等駆除

京都帝国大学図書之印
井氏蔵書

国立国会図書館　タイトル『深耕録』　請求記号　特1-1979
ガラス使用

特1－1979

菜子（ナヽシ）事
初生（ウブ）水事
同分量事
大小麦貯法事
粟事
島稲（トウカホ）事
蕎麦事
木綿事
耳著（オツテイモ）事

田植事
麦種撰法事
小麦事
大小豆事
耕（タガヘ）事
黍（キビ）事
荏（エ）胡麻事
芋事
大根蒔事

菜葉事
雑草事

諸木樹芸（マキツケ）事
早（ハヤ）登中（ナカ）登（テ）晩（オソ）登事

烟草事
茄子事
屋培（ヤシナヒ）法事

竹事

凶年取扱事

国立国会図書館　タイトル『深耕録』　請求記号 特1-1979
ガラス使用

深耕録

養意

吏士農工商其業雖異而其職一也
務尽其職而脩家業以奉
盖主職之外無餘事矣一家和睦
世守勿墜
移風俗本於功皆農業
之一源也故本朝名臣中多出於農業
續古今而不絶者多有業於農而
恪守祖父之業以致富饒者也

依る再種をまくといへとも節後まてハ用をなさゞれハ此業
を得ハ一坪の株一株の苗栽殖して植て爛熟と秋ニ
至る然ニ其成熟収納市ニ他ニ優るゝを以其稼を述て
明年の法とし其功前のことく労少くして後多し又此
務て富饒ニ家をも全くすへき心を生し農業全書を
見る者冥安貞翁農業ニ師たることを歎て着して本邦
第一農家の羽翼たり其余の農書皆其闕たるを補ひ
終とも前種の後をとらす分量をとるニ前ニ識し様し
於るを諸国ニ識し五穀万木千草皆陰陽ニ行

奥ニ尚て生熟し又前種ニ功ある事をも発明し世人の
哂我顧たくして農事を指揮たる事良三十年終ニ
天保已亥已同七丙申年諸作大ニ不熟し天下
飢饉ニ至る然るに市ニ収納平年ニ減せす僅ニ倉廩
を充しむ夏ニ至て前ニ哂し輩皆来て法をとふ
然ニ聖人孝翁田数民ニ労苦せるを以慶元ハ宜しき
天の命しむる所農事の筋骨あり是ハ是を安ニ
国ニして美作年の国恩ニ奥ハいよいよ功ニ立て此ハ是に
務て遂ニ世の哂を入りたる此念をそいて種業の草稿を

前ニ寄(ヨセ)て一小冊となし置

順水旱地形之事

一 世ニ水の不順なる地を順水させ濕(シメリ)地の悪水をさり水を
潟へ流しては冗を避へき路を開き田畠の不平を平均し
水旱の憂なく家内も晴雨ともに其の便よく耕耘収納
容易く荒地を尽く開作代る工夫農家根元之
要務なり

五穀苗異ニ草木之事

一 農業ハ知り易く女童の業となりても大に功登(ミノル)ものなれと
草木の異ハ知りかたし常に思ふといへとも草木ハ自然に生す
物なれハ其身ニ在りて憂少し諸作ハ皆人の作るものなれハ
くり其法によりて大に損益あり先種をよく撰ミ又其
多少ハ樹蘇耕耘の時を違ひ 培(ユヤシ)の不足虫の為ハ
草の害を除く法四作悪作 四作ハ不尽ハ作之 悪作ハ忌地なり 其作の吉凶
濕(シメリ)乾(カハキ)によりて相生相尅の理を存へ又前年より気候に依
用ひ初春より大略を寛其年の雨に順り前後又旱天ハに

豊山陰陽先生

陰陽の道理おゐて今年よりも来ル卯年迄三年の間ハ水難ありて心を用ゐ可し、先秋の末より冬中ハ雨多くして

晴雨考

一 農術ハ晴雨ノ考ヘ要ス、之ヲ知レハ損矢多シ、海ヲ
行ク者ノ人ノ如ク晴雨心ヲ用ユハ一金ヲ得ル、
農家モ晴雨ヲ知テ年ノ損矢ヲ補ヒ一金ヲ
得ル道理アリ、之ヲ論ス、
あまつ日 八日 月日の出入風雨の中より天気
陰雲の景 陽雲の景 陰晴も永く心の景

国立国会図書館　タイトル『深耕録』　請求記号 特1-1979
ガラス使用

自淫〳〵晴雨時ふさ〳〵たゞ〳〵
雲さく〳〵出わく〳〵わし〳〵降さく〳〵
〳〵雨晴これ多六雨風發り芸八雨
天ふ雨風の氣候六事甲ふり雲起ふ
又雲あれ八晴ま又雨ふり雲ふて降
半あり大雨小雨八其時のやうなり
又六度雲変化〳〵晴雨一定ふ
ふれ八芸ふ降〳〵雲あり降ぬ
海の遠近ふより雨の晏し叶ふ
淫〳〵ふを用ま八自淫の土地と
郡地といふ若一家もつ
邀(コウ)中年ふ天花の氣を自淫し二三日先の晴雨を言
掌中を指ごとし是郷ふ農業ふ誠心をこ〳〵乃ち
ふ〳〵ふのふり

農業陰陽和合

一農業八陰陽和合自然の理ふもの
父母〳〵生ふ如ふ木ふ根ふ枯天八陽ふ
母ふり叶理ふ〳〵ふ天ふ播種(まきつけ)陰理ふ

出る喉気ハ陽、空気ハ陰也、又喉気の内に陰あり、空気の内に陽あり、
又畠ハ陽、田ハ陰なれども、畠にも陰畠あり、田にも陽田あり、土
高く乾きたるハ陽之潤(ウルホヒ)あり、水気のある所の田ハ陰なり、去る
よき田の乾(カハキ)て高からず、剛(コワ)く無作の登りよきハ陽田之中田也、
陰陽を兼たる地也、下田ハ湿(シメリ)多く、土柔(ヤハラ)かにて無作なりがたき
きハ陰也、又陰陽ハ自然にして大陰之田畠一枚きりの事なり、
なれども一枚の田又陰陽あり、陽地に早登(ワセ)、陰地に晩登(ヲク)之、
陰陽備りたる地に中登(ナカテ)を作へし、諸穀早登ハ陽にて作べくハ
陰ありされハ陰田に晩登を作りてハ熟しかたく実入る事少し、

陽田に作べきを作るハ草生じくして熟せん事無理なるべく
無別なるべし、畠も高く乾く乾きたるハ陽之湿ありて
随り有る又東南にして所の中なるハ陰之田畠陰陽の理備り
して備あるさかりなれども識るときハ不思議に存る
事を論に決めなりけれ

五穀草木雌雄(メオ)論之事

一 五穀草木各雌雄ありと云事、是を思惟(シユイ)するに人倉獣
卵の交合して子を生ずる論ハ雌雄有事、自然之五穀
草木ハ天地を父母として生ずる気候に合て熟不熟す

人の生長氣像かくのごとき海を觀時ハ人最早本
必雌雄有ともゝ云かふし　玄女稽ハ自然稽也男と号ハ
變陽と自稽語自變乃ハ惡し　玄稽ハ本来と變り其の
名ハ黒くかゝり赤ゝ白くかゝり変ハよく擇ミ云ふし
されハ雌雄の論ハ物派（うまれ）ハ変稽ハ
寧（むし）ろ汚ミ

一　世の人深くうゑハ培の能ク淺されハ
稽も亦黒ミもゝ赤ミもゝ得ふけ也稽ハ
實ニ水ニ淳ハ塊（つちくれ）ゝ悪しと云ハ道理ハ培ふと云ハ

淳されハ塊ゝ悪しと云ハ大稽ハ
依事ニ玄淳ハ培ふと云ハ三年ニ稽植れハ一稽の
根ニ一天ニ方おゝく根ゝり十ニ
稽ゝ早くゝもゝり早くゝも苗ハ
稽ゝ日ニ日ニ幅廣ゝも葉ハ
ゝ日ニ日ニ根のもゝ思ふく淳
培ゝく養ハゝ玉生せもゝを次ニ芝ニ
培要辨ゝ

一　培ハ大小便ニ重一ゝ千ニ倍ニ
用ゝれハ能ゝ穀物ニ大ニ

培とハ仕ふるふなり其蓋載信みな
川ともの有まゝとも先畠草ハ田の雑あり田ハ
海川の草ハ畠の雑あり秋とも春の田ハ生ふる草ハ苗草の
新ふて、やはり田ハ雑あり苗代ハ用ひず
床とものせず生ふりて田畠ハ雑あり物床ハ卵ふるかし
ゆゑと焼ゝ一畳ハ三ふ草ハ生ふる
生ふるハ生ふるハ雑あるゆゑ又床ハ水気を遮
家のよふ高ゝし又一ふ覆信新ふ
古ハ年ゝ用ひハ五肥ふ自然
よ培ハ昂功烈ゝし畠物の種ふ交ふ多く生ふるハ生ふる
うゆゑ生ふあり上培ハ卵ふる二ふ別ふ浪ふゝし又培の新ふ
方ハ頂のふ海を始とゝを以を用ひハ大ふ培ふあふ思
ふのあゝ其一人の始を汲ふ海ハ一人
茶の野菜の培ふハあふふものゝ
考ふ生ゝ

蚤より秋の生ふ蔬菜ふと思ふ虫ふ
卵ふあふゝし又ふ卵ふ珍ふ(クキ)菜ふ
ふハ生ふいふも卵ふ信ふ生ふ加ふ新ふハ

稲の数の長き事

天下の豊凶苦楽成（なり）

而（しかる）れバ家（いへ）方（かた）より心を用ひ苗（なへ）代（しろ）を急（いそ）ぐ

実多く秕（しひな）少（すくな）く候（そうら）ハヽ苗代を狭く

下（さが）り高く細く作（つく）るべし

の中苗（なへ）長（たけ）く茎（くき）太く株（かぶ）立（だち）悪（あし）く候ハヽ稍（やや）早く刈（かり）

茎（くき）細く苗の長（たけ）短（みじか）きを刈（かり）又苗（なへ）あまりて

あしき苗（なへ）を多く植（うゑ）てハ

陰（かげ）ニ

ハ多穂（たほ）

実（み）

多（おほ）

国立国会図書館　タイトル『深耕録』　請求記号 特1-1979
ガラス使用

毎の人一二銭の利徳ふ事論しく人精をかき仕みの
抜を以ふ多くろハ必豊農ふ事ふ服なの人とこそんか

一

稲種撰法之事

一籾三升仁三百人六年ろり六百粒程ふ先豊凶培
種の多少ふ多人の苦労あろり粒ふ大小有之ふく耕二のなき
やうるれとも色を用い数年試見ハ遠ふハ多ハ百年の程と
動ろもの心先三合三十目有ハ多ハ百粒程ふ成ハ三升六合ハ
三百六十粒の心計割合を以ふ何の種ふも三百粒程ふ耕生得
ますれハ登り升年ふ収納ふく米拾俵ふく先穂ふく

籾数多く穂ふく二俵ふ俵ふく二俵ふ俵ふ登同ふ有ふと雑穂
有の此ふ登ふる中ふり来を抜去ふ此ふ穂ふ有ハ毒ふ成ふ
あり種ふ年ハ此町ふ有ふ種ふ多ふ一ふ有ふ遠ふ成ふ
実年ハ大ふ穂揃ふく実ふ重ふ其功ふ又米の通ふ種
を取ふ一ふ花種ふ方ハ中ふ早ふ有ふ米を用ふより
ふり一早く前ふ実穂揃ふく深収納ふ成雑ふ有ふ至
ふ一ふ芒(ノゲ)稲をつふく打ハ成ふ多ふ一ふ実ふ重ふ
て、もみ中ふれ二ふ一ふ実ふ一ふ困穂ハ少ふ一ふ合を
入ふへ一ふ一ふ年ふ一ふ月ふハ米ふ脱(トキ)入ふ年ふ一ふ実秋ふ種ふ

出ざと生ざる又穂を日に向て永く干ば上穂ハ立ぞ入事く
前年ハ頭合に出来れども出来穂ハ出来かたを定むる故に生ずれ
草払悪しく根で確る之早く立納置し深田ハ植干に利ざ
畠田も早前の植ありしハ粗葉よくかさぎて悩よく安果ハ何に
用ひても甚つよし
株てし増えされども実成多けれの穂あり是ハ茎より苗を
丈し増て株へし是親穂株と姻友かゝる事早し之事に
一 茂英しき穂のごとく揃しるを中程より先を振ひく
用ひ迄ハ深利多し

耕作牒 全

一 何年何月幾日前幾日植家何

一 何畠何反歩
何種何程　培何程
収実何石何斗

一 同
何田何反何畝歩
何種何程　培何程
収実何石何斗

右之通年々荒秋行ことに候ハ
自ら諸作の業も多く農夫甲乙の別
なく皆家の重宝となん小作の人ハ
年貢へ差入ともなく大作ハ多分の
利潤を得ることに候

種籾割合苗代仕立方書

一苗代拾坪　但畝数(ママ)なし分ニ而も割合
此種壱升坪弐畝歩ニ蒔おろし八万弐千粒ニ而
生立よく積り苗数十万の目当ニ
右七万弐千粒
一苗七万弐千本　壱坪ニ蒔
此内壱万粒余日弐合弐勺余ハ植
生立よく積り苗数七万弐千本ニ
成ル
壱株六本
別おろし苗数七万弐千本ニ而
壱株ニ植ル時壱株ニ六本成ル
又壱株ニ三本植ル時ハ二万三千
株を三十九ヶ所ニ植ル
苗数収納ニ而壱反歩ニ植ル
右ハ中稲ニ而壱反歩ニ弐万八千株

小穂ハ女方稲有之 卅穂りと仕穂目の頃威成なり 又廿四五六手迄を
壱綿又十株ニ植る時ハ壱株に而八分ニ當る 右ニ六節ニ而
是迄より日数十日程永く代ニ置て之を植えされハ稲日ぞ
定め丈ケより斜へ苅(カリ)へき 株りの日数ニ苗代ニ置へし 但苗代ニ而
十分ニ伸び水ニ水底を塞(フサ)き 縫り枝を以濁又株際迄も
蔭りの中程頃合ハなか水又ニ打込れを加減しよく搔(カキ)く枝を
見るべし 仕分有りと見え定め植年をとるへし 不年なるハ
此の外ニ然し 培ハ仕来より少く多く用ゆし 壱綿ハ仕程
割合入へし 有しハ壱部仕ニそれ代のかく始む大ニ培へし

多く搔合せされハ立根入かね生立出穂登ニ不年なり
いかにても金大かく施し代ニして苗年なれハ出穂登る年なく
収納多し 而悪田ハ厩(ウマヤ)培(ゴエ)壱草干草等よし 谷田ハ新
培なく而しく多く入施し 此培の古きハ能少し

雑培仕立 佐年

一 田植終りて後 芝式ハ野山の草小笹等を刈 重く用ゆハ
明年 苗代の土より大ニ出し 此刈も五丈して培を仕
立貯置へし

種浸法事

一 種水多くして高く入落ちを流し又ちを入かゝり一五寸浪ふ葺置き翌日ハ根をくさし苗割くさせ登ちに苗早く地着天候の気をうけて生立高ふなり深田の場又陸八種ちと俵文三十日余ふ漬日向ふおき底ハ筵敷苗代の如くちと葺先ちと薬法をなし苗代深田共苗のおれちと苗ハ流ふ入ふ様又軽種ふ入ふ様ふ葺割ちと流ふ入ふ事

一 蔵寺坪戒名の種ふおゐれハちと年の割浪ふ入ふ葺置き翌日ハ必風乾又ふ葺置き苗おくれ苗割ちと登ちに早く苗立高ふ小ふふ早く苗立大ふ而ちと苗又陸ふ而ちと苗ハ稔りおゐれとも年稔ちと地力ハ大ふ而ちと苗代の種ふ而ちと何種と

葺ハ高ふ而ちと苗多く能ちと葺置き翌日ハ風乾ちと苗割ちと苗立高ふ

種水法事

国立国会図書館　タイトル『深耕録』　請求記号 特1-1979
ガラス使用

第二 作事

一 苗代ハ一年の出来と日ふくし最も要用の事なり
世間普く表土ニ堆肥又ハ灰ヲ入レ苗代ヲ作ルヲ以テ
此ニ倣ヒ苗代ヲ作ルニ二月ノ末ヨリ三月ノ初メ迄ニ
苗ヲ蒔キ終ルヲ可トス苗ハ二十日ニテ植ヘ頃トス
二十日ノ苗長ク成ルヲ以テ必ス痛テ用ユヘシ
苗植ヘ過ハ一株ニ茎多ク生シテ悪シ
苗ハ一本ニ茎ノ多キヲ要ス痛テ茎ノ多キ
ハ大十日余ノ苗ニ若苗ハ汁気薄ク痛テ茎
多ク又苗ヲ植ル物ナリトモ植ヘ過タル苗ハ
ノ苗ヲ植ルニ如カス

一 苗ハ二月ノ節氏第後ヨリ植ヘ始メ三月中旬迄ニ植ヘ終ルヲ
ヲ常トス此日数十日ヨリモ遅ク植ルハ苗ノ根多ク
ヲ不ス苗小ニシテ生気ヲ不ス苗ハ小ニシテ長ク
茎ヲ揃ヘ早ク植出ヲ実ノ多ク茎ヲ揃ヘ早ク植出ヲ実ノ多ク
茎ヒコバエ多ク生ス

田植 手

一 苗ハ二月ノ節氏第後ヨリ植ヘ始メ三月中旬迄ニ植ヘ終ル苗ハ
ヲ常トス此日数十日ヨリモ遅ク植ルハ苗ノ根多ク
植ハ出来テ実ノ少シ

国立国会図書館　タイトル『深耕録』　請求記号 特1-1979
ガラス使用

早春より仕付田を見まはりて植ゑ
おくれの処も植ゑ揃へ候ひて
不感なども著く又植傷みの
ものもなくて利ありまた
所を見て一合も用ひず浅刈
二三日前より苗根を
稍多く残し置候と稲
七八分用ひ漫然仕付
候者とは生育に
差異ありて

早く稔りて実入多し又赤米ありこれハ小稲ともいふ是も
稔多し是らの内黄ハ泡盛に造る者ありて又稲ともいふ赤稲ともいふ
よろしきことを考ふるに皆悪米ありて又稲ともいふ
其年の稔ありて二毛作ハ二年の稔あり此稔ハ二毛作ハ
二度稔ハすれ共稔多く収穫少し俗ニ毛作ともいふ
稔多く夏ハ米少しつゝ多し共ニ稔ても
実多く冬ハ実ハ多くして穂の重し卵る和漢ともに
如此ゆゑ貢(ミツキ)を十分納ることなり
国恩を報ずる人皆ゝ深く心掛べき業の種なり

麦種撰方之事

一稔ハ多く色白く堅きを実とす是を撰ふにハ前
もつて実の早きハ刈りて日に乾しよく分るものゝ穂を
つゝり二三合多く作る人ハ十六七合つゝして苅ハ翌年ハ蒔
の稔多少ハ世稔実年ハ登りとし荒ハ通
撰ミ用ゆへし変稔ハ細長く稔も少く実も多く秋
玄年の種も蒔ともよく生ずる者ハ

大要種別ムキ事

一 畠ヲ耕ス歩　竪二丈　横（字脱）一歩ニ付

種子　籾二升

但畦ノ高サ二尺ヲ除ク

稼リ取テ九千六百束　米凡ソ六百俵

右ハ第一ニ田ヲ能ク耕シ土ヲ細ニシ

ナリ、中稼ヲ第一ノ方法ト為シ

大方初リ、此稼リヲ以テ

右ハ第一ニ田ヲ能ク耕シ土ヲ細ニシ

ナリ、中稼ヲ第一ノ方法ト為シ

大方初リ、此稼リヲ以テ

右ハ第一ニ田ヲ能ク耕シ土ヲ細ニシ

ナリ、中稼ヲ第一ノ方法ト為シ

大方初リ、此稼リヲ以テ

右ハ第一ニ田ヲ能ク耕シ土ヲ細ニシ

ナリ、中稼ヲ第一ノ方法ト為シ

大方初リ、此稼リヲ以テ

右ハ第一ニ田ヲ能ク耕シ土ヲ細ニシ

ナリ、中稼ヲ第一ノ方法ト為シ

大方初リ、此稼リヲ以テ

右ハ第一ニ田ヲ能ク耕シ土ヲ細ニシ

ナリ、中稼ヲ第一ノ方法ト為シ

大方初リ、此稼リヲ以テ

れハ秋分に熟せり東南かしても生気にいくゆへに又稲子南
風に雨降ども種子の根に齎(タクハヘ)りて花熟後実をも蒔種なる
雑種しかバ風の方に流れ気ハあつて陰にて又稲西の部ハ収納時を
考へ自然と以て遣るべし先庭をよく南下りにし西上りく
庭ヲ南下リニスルコ
東より西へ高き方に烟の立ちよふにし収納の庭も勤急に為すに
つくり出しの為めにも田畠より取入稲などにし生気来
並にて流ハ自然とかへりて痛めし甚風にたえず出す
晴には千万にし雨天にも生気の蒸気に自然と高庭にし良く
乾かす蒸気にては撲に種子を立てて後麦ハ五割く砕けますと

深く浮く寛まとふして次に甘里まて流る気の勢り合まり
十日余りハ寛にし東方の丸ハ牛馬にて耕し為さんかにぶ物こえ
割くまへし蒔を後にもよく均くなり耕にかくるまでり八浅く出穂
まで救得んすゝへし稲を操く培ひ又稲の表を出すハ並んで良く熟り
て生気にいくますす黄白気く出る若口つまりて七年もあり培ハ稲
同じくゆへの品ハ々くして一味まで八純熟し二三味合あるべく合を
合わせてよく織ニ月へし麦の花の麦どく熟帯りて々上培ひ又へ
されハ蚕りあつし蒔花も上位で月れハ蚕をし早卯に培ふ
公平しおくに又生まるゝハ公私しては成りつゝ蒔花の麦も培の

国立国会図書館　タイトル『深耕録』　請求記号　特1-1979
ガラス使用

稲を刈て干ほすに又雨ふりて干ほしかねる
様なる日入の節なれば又雨のふらぬ
内にと取入るに又雨ふり濕りとこ
ろ〴〵あるものなり又雨ふりても小積
にしてをけば内より乾くものなり
乾ぬ内に土倉へ入ては田中蒸ふかし
能々乾すべし

小麦

種は稲刈跡にまくべし夏ものを播
ては悪しくまた遅くまくも悪し
畝は一畝中高八寸

しるべし又麦ふみは遅くも二月
中旬迄に踏べし
畝あけは二月下旬より三月上旬迄
にあけるべし
麦苅ものこれば早く苅べし
苅ざれば大麦は風にて
ふるゝ事多し
小麦は大麦より
種は三升九合乃至一斗
肥の合は油粕
糞灰
草灰
人糞
厩の合は油粕
糞灰

蕎麦

国立国会図書館　タイトル『深耕録』　請求記号　特1-1979
ガラス使用

一 春畝九年九百餘　　第 春分九月八日
一 春夏九月九年能　　第 春廣九分八夕

大小麦野方事

一 麦ハ幼陽ニ収納シ陽暑ニ戒験等ノ事
ハ種子分合ニ入ルヘキ事
ハ種子ハ分合ニ入ルヘキ事
ハ種子ハ分合ニ入ルヘキ事

大小麦事

一 何事モ元則ヲ以テ本トス人事ノ
万物ヨリ麦ノ万用ヲ考ヘ其重ニ
ヲ以テ小麦ハ蔓ノ如ク世ノ作業
ヲ以テ大麦ハ蔓ノ如ク移植ヲ以テ
功ヲ以テ早苗ハ小移ヲ以テ多ク両移
大移ヲ以テ多ク換ヘリ但種ヲ
ヲ以テ直ニ植ル敷ノ一

あれハなをゐて用くべく天の負利をうしのふ

一 栗 ・ 米

一 落花のころもろく登るころの雨れハ甚花ふ合と合ひるとをよろ祝ふ稗
ろくろ沈ろく雪の故くゐて培ハ麦穀稗ゆどろ初ろとし他
日来ふ苗をよて沢穀ハ吟饅よ子年五用二百苗ことをても
かゆりれ熟ろも注年ハ波ろ二迷く前へろ次ゐ苗て古ふ二百
ろ二年日ふ百ろくろ熟くゐて百幼へし

稗 米

早登のよろ苗程を擇ふまろ欧米の前代六尺壱俵程を俵

ろ日ふ女稗の別合庶ふ合ゐ和稼ろとの白ろ初ろと生員年
ろ八十八束前度代ふ苗ろ前ハすろろ時ろ花よ晴を
たろ二庶結をしてろ人ろろ稗ふ二日初ろ麦前年粒
多ろて稗ふ五をふーかけ、ろ日ふ初ろと年日ハ多ろく享ろ人
培ふく用ろく登りろし他苗ハ換ろれハ六尺
所ろり栗程ろ稲ふハ黄ろとて他ろ初ろあれろも
石ろ稲ふろくハ他生ハろ交栄雪ろ石稗七石ハ収納ゐ
旦ろく岡ろく陸(イク)ろ次、州他不時よ他へ室上のふり
五稲ふ合ろを合ろを織ろくゐ

苗植事

一 温湯ニ而種を水ニ漬ル事凡八昼夜ニ而芽ニ
なく此ハ漬しやうの口伝ハ日の中ニ幾度
となく湯ニ入替ル事ニ而ハ無之唯温湯
ニ用ひ置ク事ニ而候

一 種を床ニ入候日中より次日中迄ニ
水同一ニ而の仕方ニ而候

蒔事

一 種を床ニ入候日中より次日中迄ニ
水同一ニ而の仕方ニ而候

蒔麦事

一 蒔様ニ二通り有之候一ツハ畝の広狭ニ
而一畝ニ三条ニ用ル事ニ而候一ツハ畝
ニ種を蒔ル事ニ而候

培養事

一 培養ニ二通り有之候一ツハ畝の広狭ニ
而一畝ニ三条ニ用ル事ニ而候一ツハ畝ニ
種を蒔ル事ニ而候

培養事

一 培養ニ二通り有之候一ツハ畝の広狭ニ
而一畝ニ三条ニ用ル事ニ而候一ツハ畝ニ
種を蒔ル事ニ而候

国立国会図書館　タイトル『深耕録』　請求記号 特1-1979
ガラス使用

其正月より七月迄ニ閏八ツ前年豊作ニ又八月より十二月迄の
閏ハ必其年豊作ニ又閏ニかゝらさる年ハ必前熟すへし

一 荏胡麻

荏ハ蒔くとよく実り田地と畑とも年々胡麻蒔種の際
をとかけ蒔しくことあしく旧月下旬より五月の中迄蒔へし
至て肥たる地ニ蒔て性よく成る秋蒔ニしてよく成る時ハ小麦
前ニ蒔て能し七日目程ニ間引植し植付ハ八十八夜より前
取前代ニ揃す揃りて但し種ハ三尺間ニ仕立し
すへし生立よくして麦作の後ニて植へし早蒔植もハ

細多し胡麻ハ蒔付よく実り又八月の末頃迄と
蒔よしめ其実とハ蒔もよし胡麻ハ七八年荏ハ葉種の頃ハ大六年
よし也塩ハ不か成せつ田畑よしとしるとも田地をよく
深ハあくさくて塩ニ用る迄の及ニ次十日又日種ニ間引植し

木綿草

一 実を作る地の居地ニ取る文字沈（ミツこ）なるをよく作し
其作る所其田畑一段塩をよく撰て作るニよくまセ
出割く小石ありの乾キたる地の大麦作るを教ゆへ
てあいハメあら作しく塩不し八十八夜より旧月の中比ニ蒔付

一　麦

麦食の地となす所多きは、西より東に至るまで、凡そ人民の食料の大半は麦なり。西より東に至る間、年八十八度と植えもよく、訂正よく熟し、甚だ手を労し物費を要せず、利益多きこと稲に勝ること数倍なり。然るに稲を植えずして麦のみを植うる地方は、稲を植えざるを以て、水利の便なきにあらず、水利の便ありても、稲を植えざる地方多し。これ農民の惰弱にして、進取の気象に乏しきを以てなり。

麦の種類は、大別して春麦と秋麦との二種あり。春麦は二月の中旬より三月の中旬に播種し、六月の中旬より下旬に収穫す。秋麦は八月の中旬より下旬に播種し、翌年六月の中旬より下旬に収穫す。春麦は秋麦に比して、播種後生育の期間短きを以て、収穫少なく、秋麦は春麦に比して、播種後生育の期間長きを以て、収穫多し。

秋麦は播種後、冬季の寒気に遭うて、その生育を害せらるることあり。これ春麦の播種後、冬季の寒気に遭うことなきに比して、収穫の少なきゆえんなり。

秋麦は播種後、冬季の寒気に遭うて、その生育を害せらるることあり。これ春麦の播種後、冬季の寒気に遭うことなきに比して、収穫の少なきゆえんなり。

国立国会図書館　タイトル『深耕録』　請求記号 特1-1979
ガラス使用

發さとし又徒来ニ壺を好む伴セハ実りよし穀類ハくきもよくかれるなとそれしまへし国ニ而ハ古多く年寄の深き之足ニ而して苗を又中稲ニ此の気を好く宜を得げ利とし夏識へし冷るれハ芸もけ温るれハ芽を出ハ至而宜く歳ゞ而も是の事を明之へし

早蕃着 附

一 さつまいもハ土蔵壺多くハ其の代ハ深さ七八寸ほと入ほり上年ゝ合の鉄培并に多く入又古草灰培と共を加へしまぜ其上ニ敷又稲藁をかし又肥前ニ種を竟へ出へ來年を無之其上ニ苗床ニ而其の葉あるを多く付けて切りて挿す査一畠ニ二三度ほど又識之人ハ云ぶをたよりとす温るれハ種損し冷るれハ生ぎ之候至又七日程て根葉を出し葛ハ年の時分ニを去り霜深く落ニ暖かるゆへニして深く葉ニ覆厚くく置へし培ハ深くの落葉ニ而も落葉ニ其の植付之ハ深く其の多くうゑへし霜降ハ其れの様りても苗し而ら候生之候ても代ニ入て之其の内ゟ故ハ漲薹(コキコイ)をいと此而あかくて是ハ葉をりゐりて菜切あり至寒の能葉ニ入本菜前ニ魚ニ移へし又代ニ細らくて又二年ニ漲おき

国立国会図書館　タイトル『深耕録』　請求記号 特1-1979
ガラス使用

大根 蕎 半

大根ハ秋代又ハ春代あるを以て蒔ベし
ありて有ハ培ひくるを以て
ものもなきのみもあり
遅く蒔ハ大根重くして葉すくなく味よろしく貯ふくし
又一但ハ蒔ベきまでを十日位後るゝ
ハ可なり〳〵培ハ厚く大ハ半ば
日中ハ折〳〵土を去り次ニ陽気ニ
芸ハ大抵大根小同一ニ芸義ニ
有ゆゑ

蕎麦 半

多ハ蕎を八月初八日ニ蒔ベし
蕎ハ田向ニ蒔ベし秋の
半ニ実を結ぶ二月ニ文ニ
ありて実ハ極小ニ
ありて年ニ毛細ニ
の内ニ

別ニ植ニ及ハず植て後も土のかわかぬやうニ度々水を
そゝぐべし

茄子　事

一　此草なりの宜き種をとり瀬戸の器ニ埋め置代ハ其瓶を
多くいれ土を八才まて常に植を土と合せ三日すゝ過ぎ
種を浸し波を去り茄子細ニ半分の暖ニして半日すゝニ閉り
置て取り多く淡き水をそゝき種を蒔き苗生ひたる時苗地
是ヲ用ひて切りてよくうへとり土と会ゆるを大切ニうへ
よく畑を拵へ両隣して植たる時ハ少し押して十日十五日程
藤糞を入て其十日たちて濃糞をかけ又かり
又十日めニ厚く植て油粕を入て多く用ひ又まかり
三十日立て厩(ウマヤ)糞原糞を多く用へし外のことくちれハ
実をよくおそる事のなり

煙　草

一　是ハ国ニより其地ニより大ニかはる物なれハ能くいふへし
其大の事かはる也あり是ハ床下(ユカ)の土と床とを合せ用へ
是ハ外切あり是ハ端緒と床との陽気れ出るをむかふる也
種子入へし又其年の中ニ用ひたる土ハ其所ニ味噌を植

水ふこうなくして苗代ハ必ずそこなふものあり

一 大ふ麦ハ二毛多く蒔とりつと濃糞（コキゴエ）と粉とを（て）ぬきとして如くして又ふみ引のごとくにするをよしとほれたるをよく洗ひそ

ふるゐ休めふめるにして麦ハ又雪解ゐて関西粉ハ

塩と米の通ふ仕方ハ前ふ文ふくるゐ

西信加久ふたるとをよくハ高ゐ仕ふふハ

稲麦の芸（ウケ）あふ稼（ハサ）をよくのごとくも粉ハ

ふるものにふく放ふ

一 粉粉ハ秋蒔とより日向ふ代ふ仕ふ

春の彼岸ふ苗ふ植ふ二年目別ふ仕ふ

別ふ粉ふ未の茶ふ屋のそふ溝の

ふ茶せり根多くおて根ふそふ粉を

日四月中ふ二月中ふ粉ハ湯粉を

粉ふ事の粉ふ粉ふ根ふ粉ふ

の根をふり話をして仁万仁年ふ

俵て粉ふ粉ハ八十八束ふて入粉ふて

国立国会図書館　タイトル『深耕録』　請求記号 特1-1979
ガラス使用

極く〳〵と有とも蕨り出し枯多し出入ハ首を上ニ出し會
熟ハ首を横ニし耕作草木ハ首をたれて地中ニ入ゆく
異あれとも皆陰陽和合の氣をうけ生長し其内ハ大陰ニて
陽氣は少し是を温るとし人ハ人畜魚獣虫魚草木皆陽氣
田ニ在て陰氣外を包みより内温ニ沖のりて実を結ふ故ニ
其氣収をえされても生きを保年末より大ニ氣し渋陰
是ニ拠時ハ万事前後ハ節季頃ニつとし諸木を植てよき
首あれとも其時ハ人事ニ陰陽和合の氣有る二三月ハ専也
其氣発する時なると以草花芽吹の頃なし其氣可ハ順也

八十八夜より入梅ハ水氣多くして根付よきものなれとも草木
陽氣薄く生立方弱りあしく近年ニ於て枯草
多しよく〳〵試へし

竹 笋

一 真竹ハ二三丸を根のいまたかたまらぬ内ニ筍の出る前大概ニ限り諸木の
縁なきゆへなりとて二月中より三月中ニ植る也ハ生蔵あり
土をよく雑植多しかくる也ハ竹多く生るとも細く成也
少し又小株ニ有り入てハ枯いよ〳〵十年を経れハ生蔵
せさる一株上根のあかりて有人ての竹の蔵を論せん枚ハ根株

一 早蒔ハ大方晩の早き方ニ同し晩蒔ハ大方晩の遅き方ニ同し

早蒔　中蒔　晩蒔　共

稗ヲ綿ニ交ヘンニハ綿ノ十分ノ一ヲ加ヘ
ヲ以テ之ヲ交ヘ又ハ綿ノ十分ノ一ヲ減シ
稗ヲ以テ之ヲ交ヘ其ノ実際ニ於テ
移リ易キヲ以テ綿ノ種子ヲ減ジ稗
ノ種子ヲ加フルヲ要ス
一稗ハ綿ニ比シ其ノ種子ノ発芽ニ
ノ如ク綿ノ発芽ニ要スル日数ヨリ
ヲ以テ綿ノ種子ヲ播キ稗ノ種子ヲ
ヲ以テ稗ノ種子ヲ播キ綿ノ種子ヲ
ヲ以テ綿ノ種子ヲ播キ稗ノ種子ヲ
ヲ以テ稗ノ種子ヲ播キ綿ノ種子ヲ
一稗ハ綿ニ比シ其ノ種子ノ発芽ニ
ノ如ク綿ノ発芽ニ要スル日数ヨリ
ヲ以テ綿ノ種子ヲ播キ稗ノ種子ヲ
ヲ以テ稗ノ種子ヲ播キ綿ノ種子ヲ
ヲ以テ綿ノ種子ヲ播キ稗ノ種子ヲ
ヲ以テ稗ノ種子ヲ播キ綿ノ種子ヲ

一稗　種子ヲ播ク

一大小麦　種子ヲ播ク

一粟　四月下旬ヨリ五月上旬ニ種子ヲ播ク

一稗　種子ヲ播ク

国立国会図書館　タイトル『深耕録』　請求記号　特1-1979
ガラス使用

一 大小豆 五七月播種ス 二三年ヲ経ル

一 荏 四月播種ス 稲苗植付ノ頃ニ至レハ苅取ル 二年ヲ経ル

一 茸蕈 四月ヨリ九月ニ至ル 年中アリ

一 駿豆蚕豆 四月播種ス 七八月ニ至レハ苅取ル

一 蔬菜 四季

一 大麦 雪裡蔵種

一 大麦 四月播種ス 稲苗植付ノ頃苅取ル

一 胡麻 四月播種ス 稲苗植付ノ頃ニ至レハ苅取ル

一 芋 四月播種ス 二百五十日ヲ経テ苅取ル

一 大根蕪菁 四月播種ス 五月ニ至レハ苅取ル

一 稲苗 雪裡蔵種ス 春分ノ候ニ至レハ播種ス 秋ノ候ニ至レハ苅取ル 冬ニ入レハ雪裡ニ蔵ス

一 大小麦 晩入 大小麦

一 相麻 小麦

一 芋 駿豆 雪

一 蕪菁 稲苗植付ノ頃播種ス

一 開発地 芋 秋苅ノ後ニ播種ス 其ノ年ノ四月ニ至リ深ク耕シ 多ク田ニ入ルヘキ堆肥ヲ施シ 又深耕作アリテ 作ルヘシ

右等ノ外諸穀蔬菜深耕ノ多ク諸穀樹藝ノ

道ともに弥ゝ民生の飢寒を脱必ず師ゝ恩沢に浴して頌徳の念ひ共天地ともに窮まりなきを事の次第書に見え仏の説に報恩の善根を勧めたまへる事を思ふの余人々農事を営事ゝ事ゝ同じ見聞ゝ事ゝのみを以て皆多くして知ざるを幻ひゝ偏ゝ四民の戯れ等しからんこと勿論味ひ難き事の深ゝ渉ゝ人々農事を勉ゝ誕古今世の習弊を改ゝ事ゝ大凡半ゝ一家を立ゝ始めあ合たゝもゝゝ

思維ゝ修ゝ事ゝ言ゝの農事ゝ一時の翻路ありとゝゝ物ゝ生を非ゝ也ゝ若其為ゝ来天ゝ之ゝ不遇ゝ家方ゝまゝ古代勧農耕耘培用の可不可のなど知ゝ報ゝ也ゝ自ゝ事ゝ来日ゝ生ゝ少ゝ之ゝ道を学ゝ之ゝ友ゝ生ゝ

国立国会図書館　タイトル『深耕録』 請求記号 特1-1979
ガラス使用

右一冊を高岡行田邨作蔵人
年来心を用ひ試る農業の
てゝ着一冊小綴より高橋沢作書田民教導書を
書写ものゝ其的農業今
あれども国を隔めれば風土の違
もいかゞ七里ほどれば風
おうのれと農事は共里ごの
えとゝ書のあらかゝ又

特1
1979

大正五年十二月五日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

特1
1979

大正五年二月五日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『深耕録』　請求記号 特1-1979

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『深耕録』　請求記号　特1-1979

ガラス使用